



Title	日本語教育学位取得プログラム
Author(s)	
Citation	一橋大学留学生センター紀要, 12: 110-113
Issue Date	2009-07-20
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	http://doi.org/10.15057/17615
Right	

3. 日本語教育学位取得プログラム

本プログラムは、高度の専門性と国際性を備えた日本語教育者を養成することを目的として、2005年4月に言語社会研究科のなかに開設されたプログラムである。日本語教育の専門的な知識や技能にくわえ、日本語学の素養、日本の社会と文化に関わる幅広い知識を身につけるために、留学生センター、言語社会研究科、国立国語研究所の3者の連携する連携講座となっている。2007年4月には定員4名の博士課程のプログラムも開講された。

日本語教育学位取得プログラムの概要

定員 10名

学位 修士(学術)

授業担当者

コアスタッフ(演習を担当し、指導教員となる教員)

留学生センター：五味政信、鶴田庸子、石黒圭

言語社会研究科：秋谷治、イ・ヨンスク、坂内徳明

国立国語研究所：井上優、前川喜久雄、山崎誠

サポートスタッフ(講義を担当する教員)

留学生センター：阿部仁、庵功雄、西谷まり

経済学研究科：今村和宏

法学研究科：三枝令子

早稲田大学：吉岡英幸

国立国語研究所：小木曾智信

2008年度本プログラム修士課程入学試験志願者・合格者内訳

	受験者	合格者	入学者
一般	9	4	3
留学生	22	5	4
日本語教育経験者	4	2	1
合計	35	11	8

2008年度本プログラム修士課程入学者名簿

カテゴリ	氏名	性別	国籍等	指導教員
一般	佐川 祥予	F	日本	イ・ヨンスク
一般	永渕 泰子	F	日本	イ・ヨンスク
一般	中村 紗弥子	F	日本	井上 優
留学生	Azam, Sepehri Badi	F	イラン	石黒 圭
留学生	史 文華	F	中国	鶴田 庸子

3. 日本語教育学位取得プログラム

カテゴリ	氏名	性別	国籍等	指導教員
留学生	楊 佩純	F	台湾	五味 政信
留学生	黎 嘉欣	F	中国 (香港)	鶴田 庸子
日本語教育経験者	志賀 玲子	F	日本	鶴田 庸子

2008 年度本プログラム博士課程入学試験志願者・合格者内訳

	受験者	合格者	入学者
進学	2	1	1
編入	13	4	4
合計	15	5	5

2008 年度本プログラム博士課程入学者名簿

進学・編入の別	氏名	性別	国籍等	指導教員
編入	有田 佳代子	F	日本	五味 政信
編入	高 恩淑	F	韓国	井上 優
編入	崔 栄殊	F	韓国	井上 優
進学	劉 時珍	F	中国	石黒 圭
編入	劉 洋	F	中国	井上 優

2008 年度夏学期時間割

	1	2	3	4
月		演習：五味	演習：鶴田	演習：石黒
火	日本語教育実習 ：西谷	日本語学講義Ⅱ ：庵	日本語教育学講義Ⅰ ：西谷	
水		日本語学講義Ⅳ ：今村		
木	演習：井上	日本語教育学講義Ⅲ ：阿部 演習：イ		
金	演習：秋谷		演習：山崎 演習：坂内	演習：前川

2008年度冬学期時間割

	1	2	3	4
月		演習：五味	演習：鶴田	演習：石黒
火		日本語学講義Ⅲ ：庵	日本語教育学講義Ⅱ ：西谷	
水		日本語教育学講義Ⅶ ：三枝	日本語教育学講義Ⅵ ：吉岡	
木	演習：井上	日本語教育学講義Ⅳ ：阿部 演習：イ		
金	演習：秋谷	日本語学講義Ⅰ ：小木曾	比較文化学講義Ⅰ ：秋谷 演習：山崎 演習：坂内	演習：前川

日本語教育学位取得プログラム科目（言社研・国語研科目は除く）

科目（担当教員）	コマ数	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語教育学講義Ⅰ 日本語教授法Ⅰ（西谷）	1コマ ／週	日本語教育の教授法を概観し、教育活動を研究する方法を考える。また、授業の一環として授業見学・模擬実習を行う。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅱ 日本語教授法Ⅱ（西谷）	1コマ ／週	日本語教育の実験計画について学習し、分析手法も一部紹介する。また、教科書分析を行う。	冬学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅲ 参加型学習法 概論（阿部）	1コマ ／週	異文化・多文化理解教育にて使われる参加型学習法の実態を体験し、教育や研修分野での実用性を検証する。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅳ 異文化理解教育の実践：パーソナル・リーダーシップ（阿部）	1コマ ／週	異文化理解教育者としてのビジョンを明確にし、実践、検証、内省のサイクルを通じて、異文化対応能力を向上を狙う。	冬学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅴ 日本語教授法基礎（今村）	1コマ ／週	日本語教授法の基礎を固め、自立的な教育研究が行えるように、日本語学や教授法の基礎概念と、教室活動の実践について議論する。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅵ 日本語教材研究法（吉岡）	1コマ ／週	日本語教材を把握するための枠組みを論文などを通して学ぶと同時に、実際に分析作業を行い、具体的な研究方法を習得する。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅶ 教育評価法研究（三枝）	1コマ ／週	学習の到達度を正確に測定する尺度として、学習者の学習意欲を高める道具として、試験・評価のあり方を検討する。	冬学期開講 30時間
日本語学講義Ⅱ 教育文法研究（庵）	1コマ ／週	現代日本語の文法を、文法カテゴリ別に概説する。Ⅱでは1文内の現象、とくに単文を中心に扱う。	夏学期開講 30時間
日本語学講義Ⅲ 文章・談話研究（庵）	1コマ ／週	現代日本語の文法を、文法カテゴリ別に概説する。Ⅲでは複文、談話・テキストを中心に扱う。	冬学期開講 30時間

3. 日本語教育学位取得プログラム

科目(担当教員)	コマ数	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語教育実習 日本語教育実習(西谷)	1コマ /週	留学生センターが主催する9月の集中日本語コースにおいて、教案指導、教壇実習、改善点のフィードバックを行う。	夏学期開講 30時間
演習 文章・談話研究(石黒)	1コマ /週	文章・談話研究についての基礎的な知識を身につける。夏学期は接続詞の分析を行い、冬学期は談話分析の英語の文献を講読する。	通年開講 60時間
演習 日本語教育法研究(五味)	1コマ /週	日本語教育の実践的な方法について、とくに初級の学習者を対象とする直接法を中心に、その方法を議論する。	通年開講 60時間
演習 発話の対人的適切性研究(鶴田)	1コマ /週	日本語のポライトネスについて考察し、日本語教育への応用の道を探る	通年開講 60時間

【秋季教育実習】

実施日：2008年9月3日～9月24日

実施場所：本センター秋季日本語集中コースAクラス

内容：65時限(1時限45分)

教壇実習：6時限(中級前半クラス)

実習指導：45時限(教案指導、授業評価など)

参加者：Azam, Sepehri Badi、中村 紗弥子、黎 嘉欣、永渕 泰子

指導教員：西谷 まり、北岡 幹子、渋谷 実希

【春季海外教育実習】

実施日：2009年2月19日(木)出発～3月8日(日)帰国の全18日間

実施場所：北京大学外国語学院日本語言文化学部(学部2年生対象)

人民大学の授業見学、国際関係学院の異文化ワークショップ、

一橋大学北京事務所・国際交流基金北京事務所訪問

参加者：崔 榮殊、中村 紗弥子、黎 嘉欣、永渕 泰子

引率及び指導教員：西谷 まり

※なお、本教育実習開催にあたり、住友電機工業株式会社より実習生全員に奨学金を支給していただいた。記して感謝申しあげる。

(文責：石黒 圭、西谷 まり)